

クラス番号	610	担当教員名	中村 強士
テーマ	「子どもの貧困」を克服するソーシャルワークを考える		
著書・論文	【著 書】 『保育ソーシャルワークの思想と理論』（共著）晃洋書房、2018年 『子どもの貧困対策と教育支援』（共著）、明石書店、2017年 『貧困と保育』（共著）かもがわ出版、2016年		
研究課題等	【研究課題】 1. 保育・子育て支援政策のあり方に関する研究 2. 保育者・学童保育指導員の専門性（特に調査と実践記録）に関する研究 3. 「乳幼児期の子どもの貧困」と保育ソーシャルワークに関する研究		

ゼミナール概要

キーワード：子どもの貧困、子どもの権利、子どもの居場所、子育て支援

問題意識：

「子どもの貧困・元年」といわれる2008年から12年が過ぎようとしています。2008年以降、新聞・雑誌・テレビでとりあげられ、広く周知されることとなりました。また、子どもの福祉研究だけでなく、社会政策や学校教育、栄養学、医学、保健学などさまざまな領域から研究が蓄積されています。もちろん、その背景に、貧困下におかれた子どもたちを支援する「実践者」の取り組みがあることは言うまでもありません。

2012年に「子どもの貧困対策法」が成立・施行されており、「子どもの貧困率」を見る限り、「克服」の道歩んでいるように見えます。しかし、これまでの施策メニューでは質・量とも不足していると言わざるをえません。

2018年に「子どもの権利」が児童福祉法に規定されました。「子どもの権利」と相対立する「子どもの貧困」をどのように克服するのか。子どもの福祉が果たしてきた／果たす役割は何か。こうした問題意識をもとに、「子育て支援」や「子どもの居場所」を中軸におきながら、子どもの最善の利益を保障するソーシャルワークのあり方を考えたいと思います。

目的：

- ①「子どもの貧困」を「子どもの権利」と関わらせて理解する。
- ②仲間との共同作業を通じて自分を知り、仲間とともに成長する。
- ③社会人として必要な、＜問題認識→課題発見→解決方法の考察＞のプロセスを経験する。

計画（内容・方法等）：

- 3年次前期：①テキスト中心の学習をとおして「子どもの貧困」をめぐる現状と基礎知識を修得します。
②ゼミ生の興味関心に合わせてグループをつくり、フィールドワークに向けた事前学習を行います。

夏休み：「子どもの貧困」に関わる施設等にフィールドワークを実施し報告書を作成します。

後期：「SW実習」後、卒論計画書を作成し添削指導を受けます。

春休み：卒論を書き始めます（先行研究の分析・考察）。

- 4年次前期：卒論前半（先行研究部分）を終了し、インタビュー調査を実施します。
夏休み：卒業論文を完成させます（就活・実習・受験勉強・バイトなどの両立！）。
後期：ゼミ内で卒論発表会を行い、提出後に専修ごとの卒論発表会に備えます。
※社会福祉士国家試験に合格したいゼミ生を対象に「自主ゼミ」をひらきます。

※ゼミ生の希望のもと、施設見学、コンパ・バーベキュー・パーティーを実施します。

担当教員からのメッセージ



私は、保育、子育て支援、学童保育（放課後児童クラブ）、放課後等デイサービス、児童館、子ども食堂などを中心としたフィールドにかかわり、研究・実践活動を続けています（自分は「ソーシャルワーカー」という自負があります）。

ゼミではゼミ生一人ひとりの自主性・主体性を求めています。〇〇を学びたい、〇〇へ見学に行きたい、〇〇をみんなで食べたいなど、積極的に提案する学生を期待しています。

本ゼミを希望する学生は「エントリーシート」に、①本ゼミを希望する理由、②目指す将来像、③趣味・特技、④自己アピール、の以上4点を記入してください。